

■ブラジル：2013年の電気料金水準は2012年比16.7%減に

2012年12月5日の現地報道によれば、2013年の電気料金水準は2012年比16.7%減の水準となる見込み。本年9月にルセフ大統領は、エネルギーに関する税制改正を通じて2013年の電気料金を2012年比20%減に引き下げるとの声明を出しているが、9月に示した引き下げ目標値は未達となる様子。発電事業者は、政府の示す電気料金は不当に低く、未償却資産に対する補償も不十分であるとし、本年12月4日は、2015～2017年に失効する事業ライセンスの更新申請期限であったが、発電事業者のうち40%が更新申請を行っていない。政府は、電気料金の引き下げなしにライセンスを更新することは認めないとしており、発電事業者との対立が続いている。大統領声明について、海外投資家からは政府介入を非難する声が挙がっている。英金融大手バークレーは、本年11月にブラジル電力最大手Eletrobrasの目標株価を29リアルから1リアルに引き下げている。